

明学ソーシャルワーカーのつどい 2024

開催報告

2024年10月

明治学院大学社会学部附属研究所 相談・研究部門

今年で2回目の開催となった「明学ソーシャルワーカーのつどい 2024」には、卒後おおよそ12年日までの27名の卒業生にお集りいただきました。開催の概要は以下の通りです。

◇開催概要

日時：2024年9月28日（土）13～17時

場所：明治学院大学白金キャンパス 2022 教室

内容：はじめの挨拶 相談・研究部門主任 三輪清子先生

7名の教員からのウェルカム・メッセージ

卒業生3名（牧田純弥さん、荻野尚さん、上島素子さん）による

ソーシャルワーク実践とライフストーリーのお話

4グループに分かれてのグループセッション

全体交流会

おわりの挨拶 相談・研究部門 榎原美樹先生



集合写真



グループワークの様子

卒業生のお話の中で、牧田純弥さんは、民間企業で一時勤務された後、行政の福祉職として児童相談所や生活保護の分野で働いてこられたとのことです。支援の結果が相談者の行動変容としてすぐに現れるとは限らないが、この仕事は時間の経過とともに報われることもあるので、無理に解決を目指すのではなく、その時の自分にできることを行うことの大切さについて語られました。荻野尚さんは、卒業後地域包括支援センターの社会福祉士として、また、第2層生活支援コーディネーターとして勤務され、未経験のままこれらの職務に従事することに大きな壁を感じられたとのことです。同僚たちに支えられながら、現在は第1層生活支援コーディネーター、また実習指導者として、より俯瞰的に地域支援を行うことや根拠をもって言語化することの大切さを実感なさっていると話されました。上島素子さんは、同一法人内の特別養護老人ホーム、デイサービス、地域包括支援センターで現場経験を積んでこられたとのことです。40代を目前に人事課への異動が打診され、現場への熱い思いを持ち続けながらも、現在は法人全体の人事管理の業務にあたりながら、3名の子育てとの両立に奮闘を続けていらっしゃるとのことでした。3名に共通して、実習を含めて大学で学んだことが卒業後のふとしたタイミングで思い出され、初心に立ち返る機会になったり、励みになったりしている、とのことでした。3名のご報告後、フロアの参加者から感想や質問が出され、互いに学び合い、共感し合える時間になったと思います。

4グループに分かれてのグループセッションにおいては、参加された先生方とともに、先の3名の卒業生のお話の感想や互いの近況報告、困っていることなどの共有がなされました。終了後のアンケートには、「いろいろな分野の現場で働く方がどのような視点で福祉を見ているか、価値観を学ぶことができた」「各卒業生の方がどのようなことに悩み、乗り越えていらっしゃるかを教えていただいた」「先生方にもお会いできたことも嬉しかった」などの感想が寄せられました。

これからも卒業生の皆さんのご希望をうかがいながら、さまざまなプログラムを企画できたらと思います。引き続きどうぞよろしく申し上げます（ソーシャルワーカー 竹沢昌子、森香苗）。